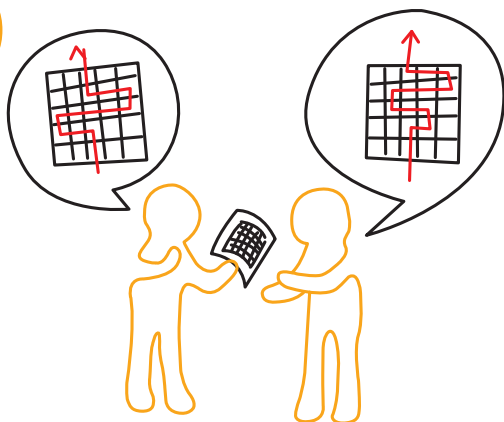


# 開発部監修 失敗しないダンボール迷路作り

## 迷路設営の流れ

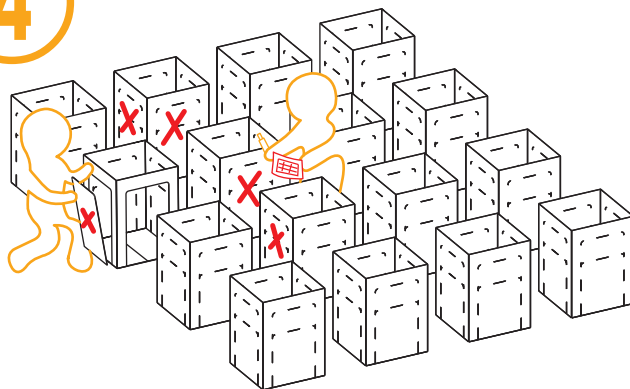
1



### 【1】コースレイアウトを考案する

方眼紙などを使ってコースレイアウトを作成します。コースを考えながらの設営は時間ばかりを浪費してしまいます。楽しい迷路を作るためにも事前にレイアウトを決めておきましょう。

4



### 【4】通路をくり抜く

レイアウトに沿って通路をくり抜きます。どこをくり抜くのか、こんがらがらないよう、切り抜く位置にマークを付ける役、マーク通りにくり抜く役を分担するとスムーズです。

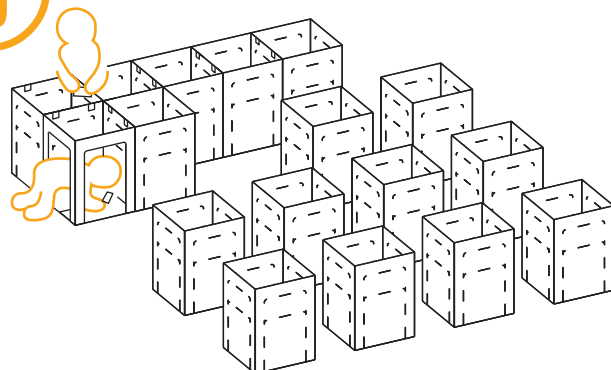
2



### 【2】床を清掃する

床面にケガや破損の原因になる凹凸や砂利がないかを確認してください。濡れた床には設置しないでください。

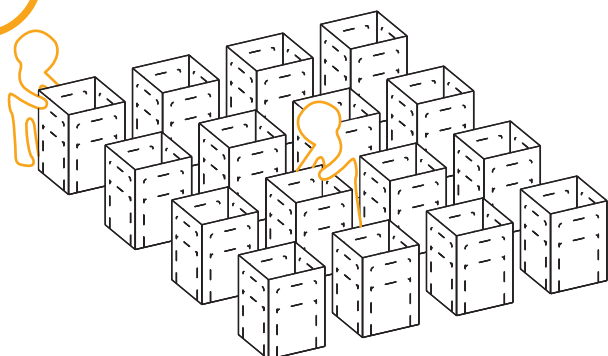
5



### 【5】マスを連結する

先にマス内の床面のフラップが跳ね上がらないようテープで留め、次にマス同士を連結します。迷路はたとえ数マスでも連結すると重量と摩擦で移動できなくなってしまいます。連結は最終的に設営する位置で行ってください。

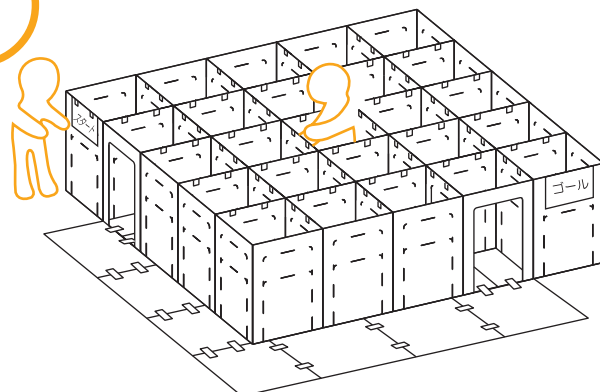
3



### 【3】マスを並べる

フラップを折ってマスを並べます。通路のくり抜き作業が出来る程度の間隔を空けておいてください。テープ、パット、貼り紙はまだ使いません。

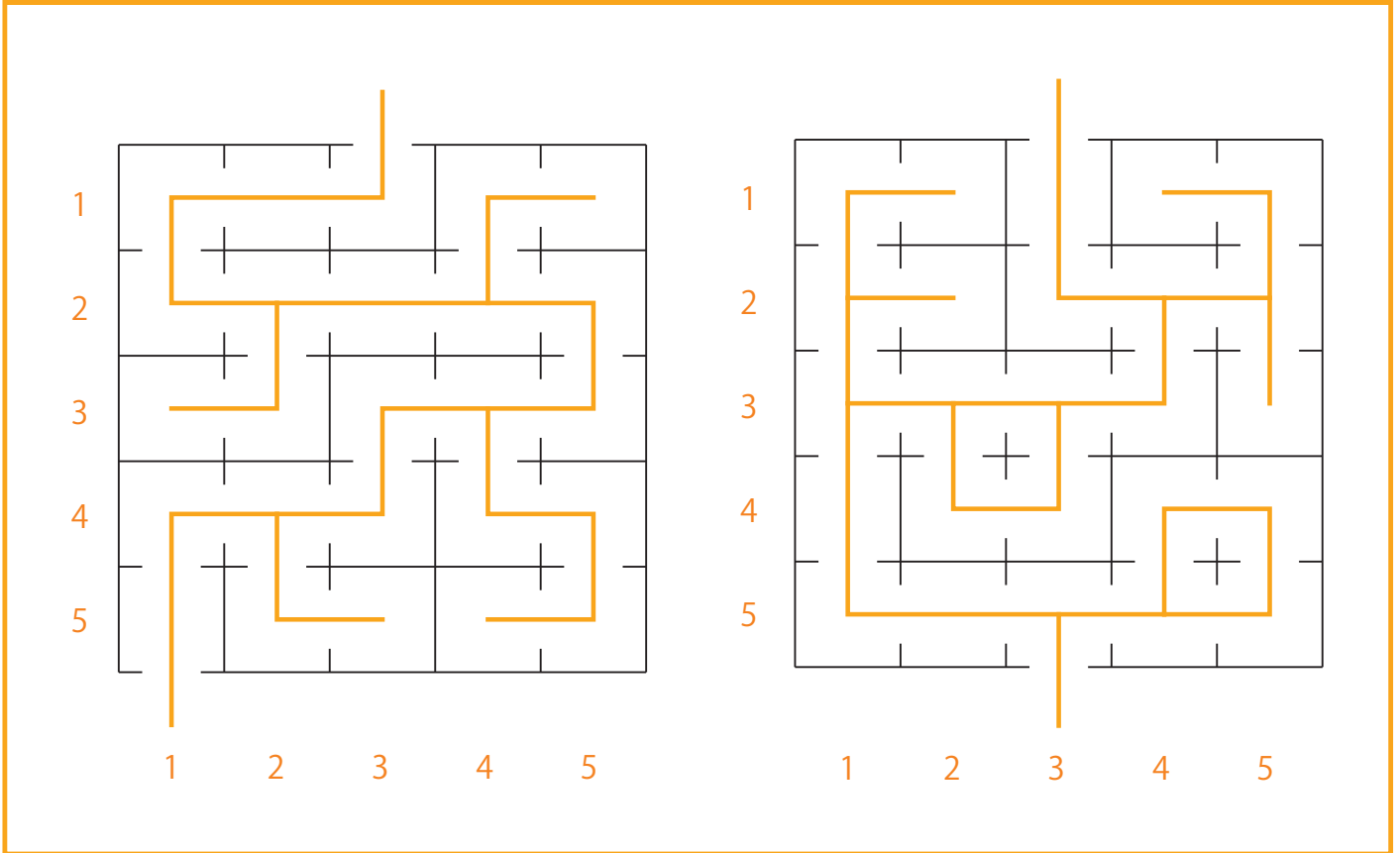
6



### 【6】貼紙と、通路を敷く

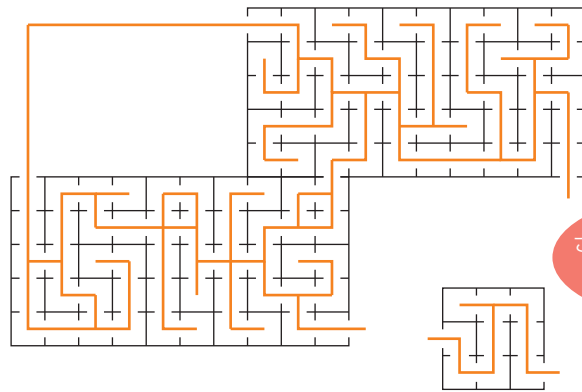
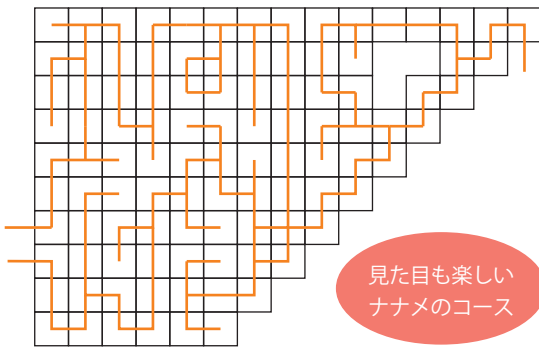
スタートとゴールに貼紙をし、通路と靴脱ぎ場を設置します。実際にコースを通りながら内に故紙や荷物が残されていないか、ゴールまでたどり着けるかを確認します。

## 参考レイアウト 25マス



### アドバイス

レイアウトは四角だけとは限りません。付属のパットや会場にあるアイテムを取り込めばアツと驚くコースも作れます。



### コースに慣れてしまったり、飽きてしまったら？

子どもは早期にルート覚え、同時に飽きを感じてしまいます。そんな時、まずはスタートとゴールをひっくり返してみてください。それだけで変化が生まれて、再び興味をもちはじめます。新たな通路を切り抜いたり、付属パットで塞いだりしながら変化をつけるのも一興です。

### 手荷物やリュックサックは大敵！

イベントによっては、来場者が荷物を持ったまま迷路に入ろうとすることがありますが、手荷物やリュックサックがダンボールに当たると急激に迷路がゆがみ、破損が進みます。手荷物置場を設けるなどし、手ぶらで迷路に入るよう徹底してください。



参考レイアウト100マス

